

# 学校だより

# 翔 空

No. 40 平成25年 1月24日(木)  
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

## 「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

### 【名言・格言 第3弾】

今回紹介する名言は、名著『夜と霧』を書いた精神科医のビクトール・フランクルの言葉です。

「私たち人間がなすべきことは、生きる意味はあることか、『人生を問う』ことではなく、人生のさまざまな状況に直面しながら、その都度『人生から問われていることに全力で応えていくこと』だけなのです。」

この言葉は、誰もが一度は考える「**人生の意味**」について思い悩んだときに、心の支えとなってくれるはず。普通、「自分の人生はなんでこうなんだ」と人生を問うことはあるのですが、「人生から問われている」という考えには到りません。言ってみれば、コペルニクス的転回ということになります。フランクルは続けて次のように言います。

「あなたを必要としている人やものがきっとある。そこに思いを馳せてみてください」

こう言ってフランクルは、ナチスの収容所で希望を失って死にかけていた囚人たちの命を何人も救ったのです。



インフルエンザが市内で猛威を振っています。外出の際に、必ず防御策をお願いします。

## 「実際に体験することの大切さ」 ～保護者アンケートにも要望が！～

最近多くの人たちが体験活動の大切さを強調しています。「口先ばかりでなく、しっかりとした実体験にもとづいてものを語れ」というわけです。受験面接や就職活動においても、どのような経験や体験してきたかを詳細に問われるといわれています。以前にも紹介しましたが、体験活動の大切さをうまく表現したのとして、サトウ・ハチロー氏の「からだでおぼえたものは、はなれない」という詩があります。

手でおぼえる  
足でさとる  
目にやきつける  
胸にしみこます  
(中略)

からだでおぼえたものは  
からだからはなれない  
はなれない

この詩は、からだ全体で実際に体験したことは、離れずにしっかりと記憶に残ることを訴えています。また、ある教授が、数学の勉強にたとえて次のようなことを言っております。

*I hear, and I forget.*

→ 聞くだけでは忘れる

*I see, and I remember.*

→ 見ると記憶に残る

*I do, and I understand.*

→ やってみてよくわかる

*I use, and I appreciate.*

→ 応用してみても初めて真に理解する

これは、「わかる」過程を簡潔に言い表したとしても記憶に残る表現です。「わかる」には複数のレベルがあるのですが、最後の「*I appreciate.* (アイ アプリーアット)」に至って初めて深い理解に達するといえるわけです。算数で言うなら、四則計算などができただけではなく、その計算の意味を理解し、使った本当にありがたみのわかる段階まで進み、深く理解した状態こそが最後の4つめなのです。

保護者アンケート調査の際にいつも出てくる要望の中で、「ボランティア活動を取り入れて欲しい」というのがあります。昨年度も要望としてあがっていたので、現状ではまだまだ足りないということでしょうか。今年度は、新学習指導要領により各教科の教える中味が増えたために、行事を増やすことができませんでした。実施された奉仕活動が地域の方々にも感謝の気持ちで迎えられように、さらに中味を検討してみたいと考えています。